

令和8年度 第4回美里地域会議 会議録

日 時：令和8年7月9日（木）午後7時～8時

場 所：美里交流館 2階 中会議室

出席者：＜地域会議委員＞加藤 智江、小林 健一、清水 幸男、鈴木 智映子、
高橋 重樹、手嶋 英之、野村 耕一、原 淑子、
吉本 勝、渡邊 慎大

（欠席）鈴木 美喜世

＜高橋支所＞ 前田支所長、太田副支所長、河野主査

＜内容＞

1 豊田市民の誓いの唱和

2 会長挨拶

3 事業案整理資料の内容説明

前回会議で委員から提案のあった事業案を取りまとめた資料について、前回会議の振り返りを兼ねて事務局から説明した。

4 美里地域会議提言書（案）の内容確認

事務局が作成した提言書（案）を委員に提示し、内容について確認するとともに意見交換を行った。

【意見一覧】

（1）「提言の背景」欄

- ・「高齢者が抱える課題を正確に把握」は、「課題を的確に把握」又は「課題をしっかり把握」とした方がよい。
- ・「実態調査を実施してくださり」は、「実態調査を実施していただき」とした方がよい。
- ・アンケート、ヒアリング、意見交換会については、実施人数や回数などの実績を記載した方がよい。

（2）「現状と課題」欄

- ・「これらにより地域での関係づくり」は、「これらの要因により地域での関係づくり」とした方が分かりやすい。

（3）「提言の内容」欄

①情報誌の発行

- ・「情報誌の発行」は、「高齢者支援と地域参加促進の情報誌の発行」とした方がよい。
- ・掲載内容について、もう少し具体的に記載した方がよい。
- ・提言時までには情報誌の名称が決まれば記載したい。

②地域会議フェスタ（仮称）の開催

- ・「地域会議フェスタ（仮称）」は、「高齢者支援と地域参加促進の地域会議フェスタ」とした方がよい。
- ・「地域団体が一堂に会し活動内容や」は、「地域団体が一堂に会して活動内容を紹介し」とした方がよい。
- ・「住民が地域活動に触れる」は、「住民（特に高齢者）が地域活動に触れる」とした方がよい。

- ・フェスタの名称は、特定の人だけが対象と受け取られないよう、多くの人に関心を持てるものとしたい。他市では「介護フェスタ」から「元気フェスタ」へ名称を変更した事例がある。
- ・参加対象は高齢者だけでなく、学生など多世代が参加できる内容とし、世代間交流につながる機会としてはどうか。
- ・制度紹介だけでなく、今後の生活について考えることができるブースを設けてもよいのではないか。

③地域の担い手づくり

- ・「担い手づくり」の表現については、「高齢者支援の担い手づくり」「地域での交流機会の創出」「孤立・孤独を防ぐための継続的な地域活動の推進」など、内容が分かる表現にした方がよい。
- ・「地域活動の担い手不足」は「地域での交流機会の不足」とした方がよい。
- ・「地域全体の支え合いの力を強化します」は、「強化するとともに、地域の担い手不足の解消と対策を進めます」とした方がよい。
- ・情報誌やフェスタと比べ、具体的な取組内容の記載が不足している。
- ・高齢者クラブの活動充実や学習会の開催、参加者の固定化対策など、既存団体への支援を充実させることで、比較的短期間で効果が期待できる。
- ・「ふれあいサロン」の設置など、継続的な地域活動につながる事業を盛り込んでどうか。
- ・「担い手」が何を担う人を指すのか明確にした方がよい。
- ・学校との連携によるボランティア参加については、具体的な手法まで提言書に記載する必要はないのではないか。
- ・活発に活動している団体への支援や、活動を維持・向上するための組織づくりを支援するという視点も必要である。
- ・情報誌やフェスタと同列の事業として扱うことに違和感がある。
- ・提言時点で事業の骨格を整理した上で、提言書への記載内容を検討した方がよい。
- ・「担い手になってください」よりも、「地域活動に関心や意欲のある方」などの表現がよい。
- ・多世代交流が日常的に行われる地域となれば、担い手も見つかりやすくなる。
- ・地域活動の活性化や参加者の固定化解消のためには、「継続的」という視点が重要である。

(4)「今後の進め方」欄

- ・「市と地域が共働しながら」という表現は、「具体化を進め」の前に配置した方がよい。
- ・「高齢者が地域と関わり続けられる環境づくり」は、「高齢者が地域と関わり続けられる事業の検討」とした方がよい。
- ・美里地区として目指す姿や考え方を盛り込んだ方がよい。
- ・全体として文章量が少なく、提言への思いが伝わりにくいため、内容を充実させた方がよい。

(5)全体を通した意見

- ・メインの対象者は「要支援・要介護認定を受けていない高齢者」であることを明確にすべきである。
- ・「高齢者支援」を提言全体のキーワードとして、より前面に出した方がよい。
- ・地域活動に参加したいが参加できない人への支援という視点も必要である。

- ・高齢者を支援するだけでなく、高齢者が地域を支える側となる視点も重要である。
- ・多世代交流や三世代交流を促進する内容を盛り込んだ方がよい。
- ・情報誌やフェスタの内容をより具体的に記載し、提言全体の内容を充実させた方がよい。
- ・身体的な理由などで参加が難しい人への送迎支援なども検討してはどうか。
- ・若い世代から地域とのつながりを育てる視点も必要である。
- ・本事業の成果として、美里地区の要支援・要介護認定者の減少につながることを目指す視点も重要である。

以上の意見を踏まえ、事務局において提言書（案）を再度整理し、次回会議で第2案を提示することを説明し、委員の了承を得た。

5 委員作成資料の取扱いについて

委員から、今年度は委員作成資料が当日配布されることが多く、資料確認や説明に時間を要し、協議時間が圧迫されているとの意見があった。資料を事前に事務局へ提出し、会議資料と併せて送付できれば、委員が事前に内容を確認でき、協議時間の確保につながるのではないかと提案があった。

事務局から、発送資料は内容確認等の手続きが必要であるため、会議のおおむね2週間前までに資料を提出いただければ、会議資料への同封は可能であること、同封を希望する場合は事前に高橋支所へ相談していただきたい旨を説明した。

6 提言時期と予算との関係について

今回の協議では、提言書をさらに精査した上で提言すべきとの結論となり、次回会議でも引き続き提言書の精査を行うこととなった。

前田支所長から、提言後の地域課題解決事業の予算確保について以下の説明があった。

- ・秋頃までに提言し、その後、次年度予算の調整を行い、翌年度に事業を実施する通常の流れ
- ・緊急性が認められる場合に、年度途中でも予算を確保し、年度内に事業を実施・完了する「機動的予算」の活用

機動的予算は活用可能であるものの、予算確保に係る審査が厳しくなることや、年度内に事業を完了させる必要があることから、事業実施期間が短くなるなどの課題があるため、これらを踏まえて提言時期を検討していただきたい旨の説明があった。

委員からは、「提言書の精査も重要だが、このような事情があるのであれば、どこかで期限を設ける必要がある」との意見があった。

7 事務連絡

(1) 第5回美里地域会議

- ・日時 令和8年8月20日（木）午後7時～
- ・場所 美里交流館 2階 中会議室

(2) 会議資料の発送時期

委員から、会議1週間前の発送では資料が届いてから会議当日までの期間が短く、十分に読み込む時間が確保できないとの意見があった。

事務局からは、資料は発送直前まで確認・修正を行っているため、会議1週間前の発送を基本としているが、可能な限り早期発送に努める旨を説明した。

(3) 市長表敬の日程

市長表敬は通常、地域会議の開催日に合わせて実施しているが、市長の予定の都合により、向こう３か月は地域会議開催日に実施できない見込みである。

このため、提言の準備が整い次第、市長表敬のため通常とは別日に地域会議を開催し、出席可能な委員により実施する可能性があることを説明し、委員の了承を得た。